

イモムシの変容

(原文は英語)

ダン・ジョセフ・タレ・ディオ (17 歳)

フィリピン・カビテ州ダスマリニヤス市

ニュー・エラ高等学校

あなたは、人生がまったく理不尽なものに思える経験したことがあるだろうか。肩の荷が重すぎて耐えきれないと思うような。何年もの間、私は真っ暗な場所で自分を見失い、人生の目的と意味を探し続けていた。自分を哀れみ、自らの光を見つけられなかった。学業がもたらすあらゆるプレッシャーに耐え、次々に押し寄せる不安を何とかやり過ごし、何度も心が折れながら、行く先の見えない十代を過ごしてきた。すべては私の幼い心によるものだ。ただ彷徨っているようで、感じることは苦悩の痛みだけだった。

それは 2018 年、私たちの州では夏休みだった。フィリピンのビサヤ諸島東部のレイテ島で、こうした私の観念が徐々に崩れ始めた。島へ行くことには大きなためらいがあったが、自分の人生とそれを照らす光が見つかるかもしれないという望みに賭けて、旅行に参加することにした。長い移動の末、1900 年代半ばに建てられた古い木造の家に着いた。家は、いかにも不気味な雰囲気にも包まれていた。

日の出と日没が何回も過ぎ去っていった。もし 1 匹のイモムシに出会わなければ、私の人生は今も同じだっただろう。イモムシは裏庭の茂みの小さなグアバの木で元気よくムシャムシャと葉を食い荒らしていた。私には新しくやることができた。それは、イモムシがチョウになるまでにどれくらいかかるのかを巡らすことだった。イモムシは日ごとに大きくなっていくように見えた。しかし、すぐにチョウになれるはずなのに、なぜ段階を経なくてはならないのか、私にはその理由が解せなかった。そして、待ち望んでいた時がやってきた。サナギを見つけたのだ。何日かが過ぎ、さらに数日を重ね、私はだんだん苛立ってきた。ただ時間を無駄にしているように思えた。その真の姿を目撃するまで、本当に長い時間がかかったが、初めてチョウの体が現れ、魅了されるほど美しい羽が初めてはばたくのを見たとき、すべてが報われた。思いも寄らず、私はこの変容の中に、人生の意味を見出していたのだ。あのイモムシは、私の光だ。イモムシは、人生のさまざまな段階や困難を這うようにして進んでいった末に、輝き飛び立っていけるのだということを教えてくれた。今なら理解できる。私には自分のタイミングがあり、いつか自分の人生でチョウになるのだ。

人生について発見し始めた頃、夏休みは終わりを迎えようとしていた。太陽が輝き、天気は暖かく、草原は波のように揺れて私に別れを告げているように見えた。家に帰ることが嬉しかった。自分の人生と光を見つけるという旅の前の希望が叶ったのだ。私はもう自分を哀れんだりしない。それは、自分

の人生がようやく本当の始まりを告げた瞬間であり、長い旅の始まりに過ぎなかった。

私は、今から5年後に生物学者になると決めている。最近はとりわけ教育が不確実な状況にあるが、それでも私は、熱心に学び、世界の環境問題の解決に携わりたいと願っている。今はまだ、この地球に暮らす平凡な若者だが、それでもこの星の生命に影響を与えることができる。実際に、友達の何人かに向けて、使い捨てプラスチックを減らし、もっと持続可能な製品や代替品に切り替えることについて情報を伝えることを始めた。自然は私が人生を見つける手伝いしてくれた。今度は、自然がその命を永らえさせるのを私が手助けする番だ。これが、私の目標であり、戦いであり、人生であり、最後まで実践し続けるつもりだ。

今いる地点から、もっと素晴らしく、持続可能で平和な世界が見える。この星のすべての命が一つの使命に向かって団結し、協力し、自然を変えるのではなく、共に自然保護を広げていくことで可能な世界だ。こうした連帯を通じて、私たちは、未来の世代の生きる権利、この世界の驚くべき生の営みを見届ける彼らの権利を守ることができるのだ。

3年が過ぎた今も、私の人生を大きく変えてくれた小さな生き物に心から感謝している。気力を失ったと感じているすべての人に私の光を分け与え、人生を取り戻す助けになれるなら、これほど嬉しいことはない。